

姉妹校の大篠小へ



両校から、友達の作品や記念品などが贈られました

北海道開拓に生涯をかけた武市安哉が縁で昭和五十二年、大篠小（幾井幸雄校長）と姉妹縁組を結んだ浦臼小（竹山寅吉校長）から児童四人らが十月三十日、初めて大篠小を訪れました。

一行は、竹山校長、六年生の神原崇君、矢野奈保美さん、五年生



最後は浦臼小の校歌を大合唱

の高橋一俊君、篠原千昌さんら七人。武市安哉は、大篠小校下の大畑住吉野出身で、政治家として農民の暮らしを守るため奔走したが議事に失望。国会議員を辞め、北海

道に渡り、新しい農村づくりのため、開拓に情熱を燃やした人で、現在大篠小に、胸像が立っています。

浦臼町は、その安哉が入植した地。人口は約三千五百人で、札幌と旭川のはぼ中央に位置する農業が中心の町。浦臼小は、児童数六十一人と、大篠小と比べると小さな学校です。

昭和五十二年に、姉妹校の縁組を結んで以来、作品の交換など交流を深めてきましたが、児童が直接訪問したことはなく、今回が初めて。

三十一日、市民体育館で行われた交歓会では、大篠小の児童全員

が参加。幾井校長、田島邦雄PTA会長が歓迎のあいさつの後、大篠小から「今まで以上の強いきずなで結ばれ、友情の輪を大きくしていこう」、浦臼小の神原崇君が「武市先生の理想を永くとどめ、いつまでも交流を深めていきましよう」と、メッセージを送り合った。そして、浦臼小からエゾリスとエゾライチョウのはく製、大篠小からは闘犬と電馬像の置物などが、それぞれ贈られました。

その後、浦臼小の児童四人が、民謡「ソーラン節」を演奏、それに答えて大篠小の五年生が合奏。最後は、全員で浦臼小の校歌を大合唱し、交流を深めました。

田村遺跡の資料集を刊行

●田村遺跡を保存する会

田村遺跡に関する新聞記事や論文を集めた「田村遺跡群発掘調査及び保存運動関係資料集」（写真）が、「田村遺跡を保存する会」の手によって刊行されました。

大きさはB4変形判で、百二十ページにわたるもの。新聞記事関係では、昭和五十五年一月十六日付高知新聞の「埋蔵文化財調査始まる」から、五十八年十

二月末までの九十三件。論文やレポート十四編、その他現地説明会での資料など、豊富な資料で構成されています。

これらの資料は、保存する会の主催者で、高知農業高校の窪田充治教師が収集、編集したものです。

保存する会では、一般の希望者に千円でお分けしています。

お問い合わせは……南国市
左右山 乾常美方まで。

